

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予察特殊報第 3 号を下記のとおり発表したのを送付します。

平成 24 年度病虫害発生予察特殊報第 3 号

平成 24 年 10 月 19 日

岡 山 県

1. 病虫害名 ナスコナカイガラムシ (*Phenacoccus solani* Ferris)
2. 発生作物名 ナス
3. 特殊報の内容 岡山県での初発生を確認
4. 初発生確認月日 平成 24 年 5 月 31 日
5. 発生確認場所 岡山県南部
6. 発生面積 10 a
7. 発生状況

平成 24 年 5 月に天敵を利用した防除体系を実施している岡山県南部の施設ナスほ場で、葉及び果実にすす状の汚れが発生しているとの情報を得た。すす状の汚れを生じている部位を診断したところ、コナカイガラムシ類に類似した虫の発生がみられた。本虫を採取し、神戸植物防疫所に本虫の同定を依頼した結果、本県では未確認のナスコナカイガラムシと同定された。本虫は平成 15 年に高知県で初めて確認され、これまで長崎県、愛知県、茨城県、奈良県、京都府、鹿児島県、及び岐阜県で発生が確認されている。

8. 形態

雌成虫は、長楕円形で体長 3～5 mm。体色は灰色で、体表は白色粉状のロウ物質で覆われる。体周縁のロウ物質の突起は 18 対あるが、短く目立たない（写真 1）。

9. 生態及び被害

- (1) 単為生殖で卵胎生を行い、卵のうを形成せず直接産仔する。3 齢幼虫を経て成虫となり、年に数世代を繰り返す。
- (2) 主に葉、茎に寄生し、多発すると果実にも寄生がみられる。成幼虫の吸汁による生育阻害や排泄物によりすす状の汚れが生じ、葉や果実などの外観品質が低下する（写真 2）。
- (3) 本虫は広食性であり、寄主植物は、ナス科、キク科、マメ科、アブラナ科など 30 科に及ぶとされ、国内では施設栽培のナス、ピーマン、キュウリ、キク、スイゼンジナ、パンジーで発生が確認されている。

10. 防除対策及び参考事項

- (1) ほ場内をよく観察し、早期発見に努め、見つけ次第捕殺するか、発生部位を除去する。
- (2) 本種は寄主範囲が広く、観葉植物や雑草などにも寄生する可能性があるため、それら植物の持ち込みを控え、施設内外の除草に努める。
- (3) 既発生県では、減農薬栽培ピーマンなどで本種の発生を確認しており、減農薬栽培や無農薬栽培の野菜等では注意が必要である。
- (4) 本虫に対する農薬登録はない。



写真1 雌成虫(体長3～5mm)
バーは1mm

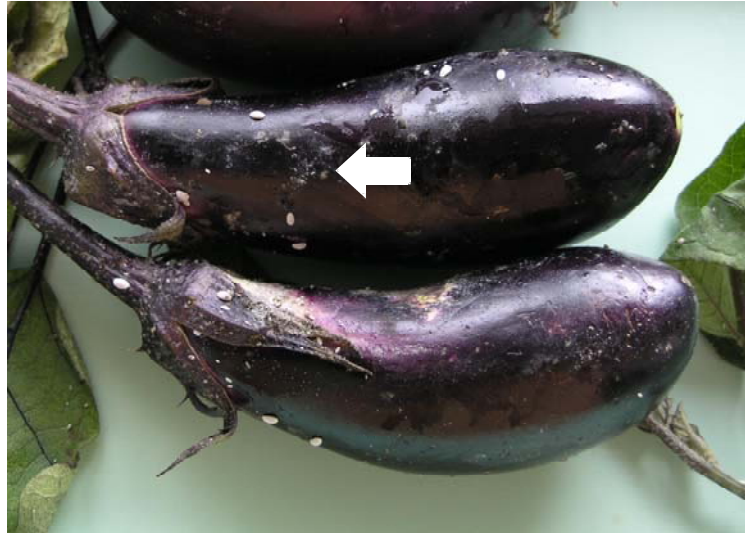


写真2 ナス果実に群生しているナスコナカイガラムシ
及び果実表面に生じたすす状の汚れ(矢印)

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239